

2015年12月14日

試験計画書

依頼者 日扇産業株式会社 殿
依頼日 2015年11月18日
試験項目 抗ウイルス性試験

株式会社 信州セラミックス
〒399-5501
長野県木曾郡大桑村殿 35-46
TEL : 0264-55-1221
FAX : 0264-55-1181

供試ウイルス

インフルエンザウイルス influenza virus H3N2 A/kitakyuusyuu/159/93

ネコカリシウイルス Feline calicivirus F9 ATCC#VR-782

ディープフリーザーによる長期保存株ウイルス液を凍結融解した後、PBS(-)にて10倍希釈を行い、ウイルス浮遊液として使用する。

試験内容-試料と使用微生物

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1) ニッセンミラクル原液 | インフルエンザウイルス |
| 2) ニッセンミラクル原液 | ネコカリシウイルス(ノロウイルス代替) |
| 3) ニッセンミラクル100倍希釈液 | ネコカリシウイルス(ノロウイルス代替) |
| 4) ニッセンキット100倍希釈液 | ネコカリシウイルス(ノロウイルス代替) |
| 追加検体 5) ニッセンキット100倍希釈液 | インフルエンザウイルス |

事前検証項目

1) 細胞毒性

上記試料と不活化剤の混和後(ウイルスは混和しない)、30分間静置し
試料による細胞への影響を確認する。

2) ウイルスへの感受性および性能不活化剤の作用確認

上記試料と不活化剤の混和後、ウイルスを混和し30分後にウイルスの検出を確認する。

本試験

ウイルス浮遊液を1mLずつ分注し、それらに上記試料(対照区にはPBS(-))を1mLずつ混和する。
上記の混和から60分後、不活化剤2mLを混和し、抗ウイルス作用を不活化させ
試験区(試料)、対照区(PBS(-))の比較による60分間のウイルス減少傾向を確認する。

ウイルス感染価の測定

MDCK細胞、CrFK細胞によるプラークアッセイ法(ISO18184:2014 繊維製品の抗ウイルス性試験方法 記載の Plaque assay) に基づきウイルス感染価を測定し接種から3日後に固定染色を行い、形成されたプラークを数え試料1mL中のウイルス数を対数値に換算する。